2007 年 1 月 14 日（日）
第８回中日理論言語学研究会　於 関西学院大学大阪梅田キャンパス

定名詞句が現れる存現文

澤田浩子（筑波大学）
sawada@lingua.tsukuba.ac.jp

１．はじめに

1.1　研究の背景

■　「存現文」―「出現・消失」:「前面来了一个人。」
　　―「存在」:「屋子里有一个人。」
　　―「存在のあり方」(a)自動詞 (b)自他両用動詞 (c)他動詞

■　「存在のあり方」の存現文[1]

(1) a．自動詞：床上　躺着　一个　人。
　　ベッド 横たわっている 一人 人
　　（ベッドに一人の人が横たわっている）

b．自他両用動詞：墙上　挂着　一　幅　画儿。
　　壁 掛かっている 一幅の 絵
　　（壁に一幅の絵が掛かっている）

c．他動詞（作成動詞）：睡衣上　绣着　一　朵 小花。
　　パジャマ 刺繍してある 一輪 小花
　　（パジャマに一輪の小花が刺繍してある）

→　「存現文」動詞句の後ろは不定名詞
　　范方莲 1963:392-393，朱德熙 1982:114-115，刘月华他 1983:458，
　　李临定 1987:67,1988:217，陆俭明 1988:178-179

1.2　定名詞存現文

■　先行研究

范方莲(1963:386)「（述語動詞の後ろの名詞句は）たいてい不定である。しかし定名詞を排斥するわけではない」

(2)　一条石板道伸进在河里，旁边就泊着阿李的船。
　　（一本の石畳の道が河の中に伸びており，そのそばには阿李の船が停泊している。）

(3)　前面横卧着龙涎河。（前には龍涎河が横たわっている。）

[1] アスペクト辞“了”を伴う場合や，アスペクト辞を伴わない場合もあるが，本発表では“着”を伴うもののみを扱う。

李临定(1988:217-218)

(4)　顺着墙坐着妈妈。

（壁際にはお母さんが座っている。）

(5)　在一张旧沙发上歪歪地靠着江泰。

（古いソファーには江泰がだらしなくもたれている。）

■　澤田(2006)

(6)　门外　站着　肖禾。（ドアの外には肖禾が立っている。）　　铁凝『对面』

ドアの外　立っている　肖禾(人名)

(7)　面前　站着　他。（目の前には彼が立っている。）　　張抗抗『北極光』

目の前　立っている　彼

人物の存在を表す存現文（「中川正之蔵書データ」[2]を使用）

	存現文の数	定名詞存現文の数（存現文全体に占める割合）
坐着（座っている）	107	21　(19.6%)
站着（立っている）	82	16　(19.5%)
立着（立っている）	15	4　(26.6%)
躺着（横たわっている）	28	4　(14.2%)
睡着（寝ている）	6	1　(16.6%)
蹲着（うずくまっている）	3	0　(　0%)
合計	241	46　(19.0%)

→　定名詞存現文が決して「例外的」な現象ではないこと

→　どのような文脈の中で成立するのか，談話を視野に入れて観察すべきであること

■　不定標識としての“一个”

刘月华ほか(1983:458)

固有名詞の場合は“(一) 个（ひとりの)”などの数量詞を用いて形式上不定にする。

(8)　两千年前的中国历史上有个秦始皇，……。

（二千年前の中国史上に秦の始皇帝という人物がおり，……）

→　しかし「存在のあり方」の存現文では，固有名詞が用いられるのはむしろ既出の人物。不定標識としての数量詞も伴わない。

[2] 中国語の現代小説など 61 名 270 作品（日本語小説の翻訳 3 作品を含む）からなる約 800 万字の電子データ。中川正之先生の作成による。

1.3　本発表の目的

■　中国語母語話者による語感

・　小説などの文学作品，人に読ませる文章

・　日常会話では使わない表現

■　日常会話における存現文と，「語り」における存現文

２．ＳＶとの対立において捉えられる「存現文（ＶＳ）」

2.1　ＳＶは［＋顔］，ＶＳは［－顔］

■　杉村(1999)　「进来一个人。」と「出去一个人。」「小王出去了。」

『通常，出て行く人は今までここにいた人であり，その存在が話の場に確立された実在感のある人である。これを［＋顔］と表そう。［＋顔］は出現・存在・消失いずれの情景においても動詞の前に出る。』

(9) 一个戴眼镜儿的、高而瘦的男同志迈着沉重的步子走进来。随着他，进来一个勤务员，给他们倒水。

（メガネをかけた，背が高くてやせた男が思い足取りで入ってきた。それに続いて一人の従業員が入ってきて彼らに水を汲んだ。）

『人が外から入って来る場合は，固有名詞のように既に話の場に確立した存在でない限り，［－顔］であるはずだが，出現の瞬間その人物に焦点が絞られ視界にズームインすると，あたかもすでに確立した存在であるかのように［＋顔］として振舞い，固有名詞や代名詞と同じく動詞に先立って現れる。一方，話の場に未承認・未確立の存在である［－顔］は，動詞に先導されて現れる。［＋顔］［－顔］と述語動詞の先後関係は，現実の認知の序列を忠実になぞっているのである。

［＋顔］には意志・意図・様態・動作の形象性なども付随し，文は“一个Ｘ的人Ｙ地Ｚ进来了”という構成になることが多い。Ｘは顔，Ｙは意志・意図・様態，Ｚは動作の形象性に対応し，単に“一个人进来了`”はないと言ってよい。』

（杉村 1999:60，下線は発表者）

→　定名詞存現文は，本来［＋顔］の定名詞を，［－顔］として描く表現なのか？

2.2　「定名詞存現文」本来ＳＶになれるはずのＶＳ

■　アンケート：中国語母語話者 13 名に，小説の一節を示し，ＳＶとＶＳ，どちらが適切かを判断してもらった。

(10) 打过熄灯铃儿，我插了门，第一件事就是给田芳写信。我拔开毛笔帽儿，在红格白纸上写下一个“芳”字的时候，眼泪就糊住了眼睛。我听见敲门声，慌忙收拾了纸笔，拉开门扣儿，{a. 刘建国校长在门外站着 / b. 门外站着刘建国校长}。

这是他第一次走进我的“工友室”，坐在一只椅子上，很关切地问：“思想压力很大吧？”

（消灯のブザーが鳴ってから,私はドアに鍵をかけて，まず田芳に手紙を書いた。私が筆のキャップを取って赤い格子の白い紙に「芳」という字を書いたとき涙で眼がにじんだ。私はドアのノックの音が聞こえたので，あわてて筆記道具を片付け，ドアを開けた。ドアの外には劉建国校長が立っていた。彼が私の「工友室」に入ってきたのは初めてのことだった。彼は椅子に腰をおろすと，「思想的なプレッシャーは大変でしょう」と懇ろに聞いた。）

陈忠实『蓝袍先生』

(11) 他母亲说到“那个女人”的时候，他便痛苦地皱起眉头，一面伸手去紧紧捏住他妻子的一只手，他害怕他妻子会跟他母亲吵起来。可是他妻子始终不作声。到这时他不能再忍耐了，便叫了一声：“妈！”声音里含着恳求和悲痛。

“什么事？”母亲惊问道。她把手从眼睛上拿下来。这次她看见了，{a. 那个女人在他的身旁就站着！ / b. 在他的身旁就站着那个女人！}

“我陪他回来的，”树生故意装出安静的样子说。

（彼の母親が「あの女」のことに言い及んだとき彼は苦しそうに眉を寄せ，手を伸ばして妻の片手をきつく握った。彼は妻が彼の母親といさかいを始めるのを恐れていた。しかし妻は終始声を出さなかった。この時になって彼はもう我慢することができず「お母さん！」と一声叫んだ。その声には懇願と悲痛が含まれていた。「どうしたの？」母親は驚いて尋ね，眼を覆っていた手をはずした。その時彼女は見た，彼のそばにあの女が立っているのを！「私は彼のお供をして戻ってきたんです」樹生はわざと落ち着き払った様子で言った。）

巴金『寒夜』

(12) 十点五十八分，一辆平板三轮飞快地驶离了东单十字路口，蹬车的钱二壮两个宽阔厚实的肩膀大幅度地摆动着。平板三轮上铺着褥子，候莹仰面躺在褥子上，枕着枕头，盖着被子，被子一直盖到她鼻子下面。她睁着眼，望着天上似乎舞动着的星星，还有不时在星空下交错移动的无轨电车的电线。{a. 母亲在平板三轮一侧坐着 / b. 平板三轮一侧坐着母亲}，她把一只手伸进被子去，握住女儿的一只手。女儿的手是柔软的、温暖的。

（リヤカーの上には敷き布団が敷いてあって，候莹は仰向けに横たわっていた。枕をして，掛け布団をかぶり，掛け布団は鼻のすぐ下まで引き上げられていた。彼女は目を見開いてグルグル廻っているように見える星と，星の下でたえず交錯して移動するトローリーバスの電線を眺めていた。リヤカーの縁には母親が座っている。彼女は片手を布団の中に入れて娘の片手を握っている。娘の手は柔らかく暖かい。）

刘心武『立体交叉桥』

(13) 仅只十分钟之后，他就看见了王倚瑶。在他的汽车里，从车窗的纱帘背后，看见一辆三轮车飞快地驶着，几乎与他的汽车平行，{a. 王琦瑶在车上坐着 / b. 车上坐着王琦瑶}。她穿一件秋大衣，头发有些叫风吹乱。她手里紧捏着羊皮手袋，眼睛直视前方，紧张地追寻着什么。三轮车与汽车并齐走了一段，还是落后了。王琦瑶退出了眼睑。这不期而遇非但没有安慰李主任，反使他伤感加倍。

（わずか十分ほど後に，彼は王倚瑶を見た。彼の車の中で，窓のレースを通して，一台の三輪車が疾走してくるのを見た。まるでそれは彼の車と並行するかのようであった。その三輪車には王倚瑶が乗っていた。彼女は秋もののコートを着て，髪はすこし風で乱れていた。手には羊皮の手袋がきゅっとつままれ，目は前方をじっと見つめ，緊張した面持ちで何かを追いかけている。三輪車は車としばらく併走した後で，やはり後ろに遠のいていった。王倚瑶はまぶたから遠のいていった。これは期せずして李主任を慰めるのではなく，彼の感傷を倍加させることになった。）　王安亿『长恨歌』

■　アンケートの結果

	ＳＶ		ＶＳ	（どちらとも言えない）
(10)	4	＜	9	0
(11)	4	＜	7	2
(12)	7	＞	4	2
(13)	7	＞	5	1

３．定名詞存現文が現れるとき（１）

3.1　「視野の展開」のあとの人物の出現

(10)　「ドアを開ける」

(11)　「目を覆っていた手をはずす」

(14) 这个中午林林仍然没来。我无比轻松，洗了两根黄瓜，打开一瓶啤酒，坐在窗前开始吃午饭。这时对面突然出现在阳台上。跟在对面身后的是个男人，这不是那位高个子，这人比高个子岁数大，身体偏胖，也许五十岁，也许五十多岁。他尾随着对面来到阳台，对面向窗外指点着，我猜是向他介绍四周的环境。他有分寸地点着头，然后他们一起回到厨房。看得出这男人对这里并不熟悉，厨房里的一切也令他感到陌生而有趣。他拿起一些瓶瓶罐罐向对面询问着什么，她微笑着回答得有分有寸。可是当对面伏在水池前洗手时，他猛地抱住了她的腰。对面显然反抗了两下，但反抗得并不果断，于是那胖子将她扳了过来……我不知道后来发生了什么，因为关键时刻有人敲我的门。我以为是林林，气急败坏地开了门，门口站着肖禾。

我惊讶地问她是怎么找到这儿来的，她说哈萨克斯坦她都去过了，索契也去过了，区区一个设计院怎么就找不到？她还说开始她找到了我的正式宿舍，有个姓罗的告诉她，我住在

仓库里。我听着肖禾说话，眼睛却死盯住对面，阳台上已空无一人就像我刚做过一个噩梦。肖禾说喂！看你那神不守舍的样儿！我这么远来看你。　　铁凝『对面』
（私はこの後なにが起こったか知らない。なぜなら鍵となる時間にドアをノックする人がいた。私は林林だと思い，あわててドアを開けると，ドア口には肖禾が立っていた。）

(15) 可是她却什么坏事也没有干呀。这一切都是为了什么？难道真的没有人能够理解她吗？她痛苦地拍打着榆树的树干，树干在黄昏的冷风中发出“空空——”的响声。榆树已掉尽了最后一片树叶，无声无息地苦熬着冬天。它也许已经死去了吧？那枯疏的寒枝上没有任何一点生命的迹象。或许死了倒是一种解脱呢，芩芩脑子里掠过了这个念头。不知哪一本书里说过，宁可死在回来了的爱情的怀抱中，而不是活在那种正在死去的生活里……她找到了她的爱情吗？如果真的能够找到……
“要我送你回家吗？”一个声音从榆树的树心里发出来，不不，是树干后面，她吃惊地回过头，恍然如梦——面前站着他——曾储。
“……很对不起……刚才，我听见了……”他低着头，不安地交换着两只脚，喃喃说，“从冰场出来，看见了你们，好象在吵架……我怕他揍你……所以……”他善意地笑了，露出洁白而整齐的牙齿。　　張抗抗『北極光』
（「君をうちまで送ろうか？」ある声が楡の木の中から聞こえてきた。いや，木の幹の後ろからだ。彼女は驚いて振り返った。まるで夢のようだ。目の前には彼——曽儲が立っていた。）

(16) “哎，等一等……还有下车的……”她突然高声叫起来。售票员嘟哝了一句，“哗啦——”车门又打开了，她慌慌张张地跳下了车。车站很滑，她觉得自己险些要摔倒，却被一双大手紧紧拽住了。
“是你——”她回过身去，眼前就站着他。皮帽和肩头落了一层厚厚的雪，一双大眼睛亲亲热热地望着她。她明知道他会在这车站接她，却又为什么竟然差点坐过了站？
“才来？”他瓮声瓮气地问，手却没有松开。　　張抗抗『北極光』
（バス停は滑りやすく，彼女はもうちょっとで転びそうになったところ，大きな両手で抱きとめられた。「あなたなの」彼女が振り返ると，目の前には彼が立っていた。）

3.2 ［＋顔］がＶＳ構造をとる動機（１）

■　**前提と焦点**

(17)　前提［ノックの音＝ドアの外に誰かが立っている］
　　焦点［それは劉建国校長である］

(18) a. ドアの外には、劉建国校長が立っていた。（主題文）
　　b. ドアの外に立っていたのは、劉建国校長だった。（分裂文）

■　分裂文の談話上の機能

砂川（2005）

「後項焦点文」（分裂文「～は～だ」）：前提を踏まえて新しい情報を提示する。典型的には談話の主題を導入する機能。

■　「語り」における視点の二重性，編集作業

- 顛末を知っている語り手と，知らない登場人物。観客の視点と，登場人物の視点。
- 顛末を知っている語り手によるデキゴトの編集・再構築
- 顛末を知らない登場人物の視点に立ってデキゴトを再現

c.f. 坪本（1992）擬似連体節

このような擬似連体節は，「実況放送の場合」「ある要素の存在・出現を表す」「順次眼前の状況を描写しながら個体（実際は事態）を列挙する場合」，「報道写真キャプション(説明文)」，「ドラマのト書き」などに用いられる。

(19)　観客がとてもよく入った今日の甲子園球場であります。

(20)　「ブラボー，女王様ばんざい！」口々にわめく酔いどれの声々が混乱して，たちまち急霰（キュウサン）の拍手が起こった。
自然に開かれた人がきの中を，うきうきとステップをふむようにして，室の中央に進み出る一人の婦人。まっくろなイブニングドレスに，まっくろな帽子，まっくろな手袋，まっくろなくつ下，まっくろなくつ，黒ずくめの中に，輝くばかりの美貌がどきどきと上気して，赤いバラのように咲きほこっている。（江戸川乱歩『黒蜥蜴』，坪本（1992:574））

「ある名詞句を談話の中に新たに導入すると同時に，それに伴う状況を描写／説明するという二重の働きをしている。しかも結果的には（眼前の）事象を描写していることになる。ここで名詞句を導入することを「提示」と呼び，そのような二重の働きをしている文を「提示構文」とよぶことにする。（中略）「提示機能」（presentative function）には二つの場合がある。一つは，新しい情報を担う要素を焦点として提示する場合であり，もう一つは，既知情報要素を同定または再確認のために提示する場合である。（中略）･･･状況を描写する中で当該の名詞句をきわ立たせる（prominent）ところに「提示文」の本質がある。」

坪本（1992:572-573）

４．定名詞存現文が現れるとき（２）

4.1　情景描写

（12）（13）

(21) 有着朴实的颜色的红木方桌默默地站在那儿，太师椅默默地站在那儿，镶嵌着云石的烟榻默默地站在那儿，就在那烟榻上面，安息香那么静谧地，默默地躺着消瘦的父亲，嘴唇上的胡髭比上星期又斑白了些，望着烟灯里那朵豆似的火焰，眼珠子里边是颓唐的，暮年的寂寞味。　　穆时英『父亲』

（そのアヘン吸飲用ベッドの上には，安息香のように静謐に，やつれた父が黙りこくって横たわっている。）

(22) 傍晚，欢笑着的海洋喷吐着白沫敲打着松软的沙滩，翱翔在空中的水鸟掠过薄暮的浮云，不时传来“啊，啊”的叫声。斜阳射在一大块嶙峋的岩石上，在它靠近海水的一小块平坦的地方，坐着林道静和余永泽。林道静低着头，看着闪闪发光的金色的海浪，思索着什么；余永泽则仰面望着海洋的远处，望着云水相连的淡淡的天边，还不时回过头来偷眼望望林道静。

楊沫『青春之歌』

（大きなごつごつした岩に夕日があたり，その海に近い小さな平坦なところに，林道静と余永澤が座っていた。）

(23) 在柳影下慢慢地划着船，低低地唱着 Kio Rita，也是件消磨光阴的好法子。岸上站着那个管村的俄国人，悠然地喝着 Vodka，抽着强烈的俄国烟，望着我。河里有两只白鹅，躺在水面上，四面是圆的水圈儿。水里面有树，有蓝的天，白的云，猛的又来了一只山羊。我回头一瞧，原来它正在岸旁吃草。划到荒野里，就把桨搁在船板上，平躺着，一只手放在水里，望着天。让那只船顺着水淌下去，像流到天边去似的。　　穆时英『被当作消遣品的男子』

（岸には村を管理するあのロシア人が座り，悠然とウォッカを飲み，ロシアのきついタバコを吸いながら，私を見ている。）

4.2　対比的状況説明

(24)　第二天早晨，天又下起微雪来了。我和朱君的父亲和他的媳妇，在一辆大车上一清早就送朱君的棺材出城去。这时候城内外的居民还没有起床，长街上清冷的很。一辆大车，前面载着朱君的灵柩，后面坐着我们三人，慢慢的在雪里转走。雪片积在前面罩棺木的红毡上，我和朱君的父亲却包在一条破棉被里，避着背后吹来的北风。街上的行人很少，朱君的媳妇幽幽在哭着的声音，觉得更加令人伤感。　　郁達夫『考试』改为『微雪的早晨』

（一台の大きな車に，前には朱君の棺が乗り，後ろには我々三人が乗り，ゆっくりと雪の中を進んでいった。）

(25) 十五分钟后，小火车上驮载着十个国民党匪徒打扮的人，后面的一个篷车里坐着阎部长、黄科长、王科长、少剑波和一些警卫人员，向神河庙急驰。

当离神河庙五里路的地方，已遥望见神河庙的远景。小火车缓缓地停下来。

曲波『林海雪原』

（15 分後に，小さな列車が 10 人の国民党の匪賊の装いをした人たちを乗せ，後ろの一台の幌つきの車両には，阎部長と黄科長，王科長，少剑波と何人かの警備員が乗り，神河廟向けて急いでいた。

4.3　状況説明

(26)　a. 先说“卤簿”——即所谓“天子出，车驾次第”，是这样的：最先头的是军警的“净街车”，隔一段距离后是一辆红色的敞篷车，车上插一小旗，车内坐着“警察总监”，再后面，是我坐的“正车”，全红色，车两边各有两辆摩托伴随，再后面，则是随从人员和警卫人员的车辆。这是平时用的“略式卤簿”。

（少し距離を置いて後ろに一台の赤いオープンカーで，車には小旗がたち，中には『警察総監』が乗っている。）

b. 我进入屋内，先在便殿休息一下，然后接见大臣们。两边侍立着宫内府大臣、侍从武官长、侍卫处长、掌礼处长和侍从武官、侍卫官等，后来另添上“帝室御用挂”吉冈安直。用的桌椅以及桌布都是从宫内府搬来的，上有特定的兰花“御纹章”。

（両側には宮内府大臣，侍従武官長，護衛所長，儀典長，侍従武官，護衛艦などが侍り立っている。）

爱新觉罗・溥仪『我的前半生』

3.4　［＋顔］がＶＳ構造をとる動機（２）

■　描写と叙述

・范方莲（1963:386）は「这种句子和一般动词谓语句不同，主要出现在描写的场合，不大出现在一般叙述中。」（これらの構文は一般の動詞述語文とは異なり，主に描写の場合に現れ，一般的な叙述に現れることは多くない。）

・雷涛(1993:244)「常常出现在环境描写之中。」（しばしば描写の文脈に現れる。）

・刘月华他（1983:457）「存在句的表达功能主要是描写客观环境，人物的穿着打扮和姿态等等，即存在句是说明，描写性的，不是叙述性的。」（存在文の伝達機能は主に外界の環境とか人の身なりや有様などを描写することである。即ち存在文は説明的，描写的な性格を持つものであって，叙述的な性格を持つものではない。）

(27)　屋子里很干净。墙上挂着几幅油画。靠墙摆着一个小衣柜，柜子上放着一台电视机和一台录音机。旁边是一套沙发。

（部屋の中はきれいになっている。壁には油絵が何枚か掛けてある。壁際には小さな洋服ダンスが一つ置いてある。タンスの上にはテレビが一台とテープレコーダーが一台置いてあり，その横はソファーのセットである。）

■ 「描くための言葉」と「述べるための言葉」（大河内 1983）

「描くための言葉」

- 四字句，四字成語が多用される。助詞の類は最小におさえられ，実詞で綴られる。韻文のような凝縮した形式。
- 事態の静的なイメージの形成に主眼を置く。時の経過を無視する。
- 時を無視した状況を描くもの。絵になるもの。

「述べるための言葉」

- 補語表現や“了”，“着”，“地”のような助詞が多用される。“将”を使った処置文（他動詞構文），存現文も表れる。
- 事態の動的な展開を扱う。時間の中で状況の推移があり，物語の発展がある。
- 組写真のごとく幾枚もの絵を並べることによってはじめて描出されるもの。

■ 非動作主化

(28) 周家来了一个客人。（周さんの家にお客が来た）

(29) 我们班走了三个同学。（我々のクラスでは三人の同級生が去った）

『これらの文は誰かの意志でその動作が行われたのではない。おのずとそうなったのである。文頭にあるのは場所で，目的語の位置に主動者がくる。間の動詞はその主動者にかかわるものであるが，意志的におこなわれたものではない。少なくとも話し手はそのような意識でレポートしている。』（大河内 1982:39）

(30) 他手里拿着一大本书，急急忙忙走进来。

（彼は手に大きな本をもって，急ぎ足に入ってきた。

(31) 只见外边走进一个人来，头带瓦楞帽，身穿青布衣服。（ふとみると外から一人の男が入ってきた。頭にはうねのある帽子をかぶり，黒い服を着ている。）

『これらの文は存現文ではないが，しかしけっして主動者の動作を叙述するというものではなく，文頭の主語について視覚的な展開を現出してみせるという，きわめて描写的な文である。・・・（中略）・・・したがってこの種の文の主語は動作の発動者としての性格がきわめて弱く，描かれる対象である。』（大河内 1982:42，下線は発表者）

■「述べる」ＳＶに対立する「描く」構文としてのＶＳ

- 「語り」における認知順序制約のキャンセル（デキゴトの編集，デキゴトの再構築）
- 「語り」においては，述べる v. s. 描く
- 物語の展開を担わない人物を導入する構文としての存現文

参考文献

大河内康憲（1982）「中国語構文論の基礎」『講座日本語学 10　外国語との対照Ⅰ』pp. 31-52, 明治書院.

————（1983）「描くための言葉」『伊地智善継・辻本春彦両教授退官記念 中国語学・文学論集』pp.498-513，東方書店.

澤田浩子(2006)「描写に関する個とステレオタイプ―談話から見る中国語の「存現文」―」中川正之・定延利之(編)『シリーズ言語対照２　言語に現れる「世間」と「世界」』pp.79-103，くろしお出版.

杉村博文（1999）「主語の意味」『中国語』８月号，pp.58-60，内山書店.

砂川有里子（2005）『文法と談話の接点』くろしお出版.

張佩茹（2005）「複文と視点―中国語の複文における視覚表現の「視点明確化機能」」東京大学文学部『東京大学中国語中国文学研究室紀要』第８号，pp.(1)-(26).

————（2006）「“只见”の接続機能」日本中国語学会『中国語学』253 号，pp.353-372.

坪本篤朗（1992）「現象（描写）文と提示文」『文化言語学―その提言と建設』pp.564-578, 三省堂.

————（1993）「関係節と擬似修飾―状況と知覚―」『日本語学』vol.12，２月号, pp.76-87, 明治書院.

范方莲（1963）「存在句」『中国语文』第５期，pp.386-395，北京：中国语文杂志社.

李临定（1987）「划分句型的原则和标准」中国社会科学院语言研究所现代汉语研究室（编）『句型和动词』pp.63-78，北京：语文出版社.

————（1988）『汉语比较变换语法』北京：北京社会科学出版社.

刘月华・潘文娱・故韡（1983）『实用现代汉语语法』北京：外语教学与研究出版社.　[相原茂（1996 監訳）『現代中国語文法総覧』くろしお出版]

陆俭明（1988）「现代汉语中数量词的作用」中国语文杂志社(编)『语法研究和探索』pp.172-186, 北京：北京大学出版社.

张国宪（1993）「论对举格式的句法，语义和语用功能」『淮北煤师院学报』第 1 期, pp.96-100. [再録：（1998）『三个平面：汉语语法研究多维视野』，pp.295-304，北京：语文出版社]

朱德熙（1982）『语法讲义』北京：商务印书馆.